



感謝状を受けられた松本丞生さん

# 長年の人権擁護ご苦労さまでした 松本丞生さん(松の尾)退任、新たに武田文雄さん(赤松)

このたび、長年にわたり人権擁護委員として活躍され、平成十年三月三十一日をもって退任された松本丞生さん(松の尾)に、在任中の功績に対して法務大臣から感謝状が贈呈されました。

また、新たに武田文雄さん(赤松)が人権擁護委員の委嘱を受けられました。

人権擁護委員は、国民の基本的な人権が侵害されないように監



武田文雄さん

視し、もしこれが侵犯された場合には、その相談相手になり救済のための適切な処置をとるとともに、人権思想の普及・啓発に努めなければなりません。近年、いじめや体罰など子どもをめぐる人権問題も増え、その使命はますます大きくなっています。



気迫あふれる熱戦が繰り広げられました

また、試合態度、選手の礼儀、防具の整理、会場の清掃などを重視し、試合態度と礼儀作法の

最優秀校を顕彰するのも大会の特色となっています。

上郡中学校では、男子チームが順調に勝ち上がり、準決勝戦で昨年優勝の味野中学校(岡山)と対戦。接戦の末、一対二と惜敗しましたが、堂々三位入賞を果たしました。



3位入賞を果たした上郡中学校男子チーム

## ご存知ですか？ 赤松の村歌

### 町出身者からの一通の手紙

年始、現在東京にお住まいの当町出身者の方から、役場に一通の手紙が届きました。「当時全国でも稀な赤松村の村歌があったと思う。調べてほしい」との内容でした。

早速、赤松公民館に問い合わせると、なんと原文を入手し、カタカナの歌詞を漢字に直し、最近近縁に入れて公民館の研修室に掲示してあるとのことでした。

公民館長の西山正樹さんから記憶をひも解いてもらいながらお話を伺いました。

●村歌は昭和十年代に作られたと記憶している。作詩者は尾上紫舟氏で、東京大学の教授をされていた方と聞いている

#### 赤松村歌

尾上 紫舟 作詩  
佐々木 秀 作曲

- 一 順逆の違ひも夢か  
赤松の歴史は経りぬ  
大御官御旨畏み  
人の世の真の道を  
吾らみな正しく踏まむ
- 二 いとまなき日々の営み  
折節の田植草刈り  
助けあひ補ひあひて  
ほがらかに笑みかはしつ  
吾等皆相に住まはむ
- 三 千種川潤す土も  
稔らざる年もありなん  
白旗に続く青山から  
大和振り燃やしなむ  
吾等皆止まず勤めむ

